

備前市事務事業評価表

事務事業名	漁業集落排水施設管理運営事業		コード	担当課係	下水道課施設管理係
事業実施期間	昭和57年12月～(頭島)、昭和58年9月～(大多府)		01-01-10-07	担当者	奥原通夫
総合計画 事業(政策)体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり	電話	0869-63-2330	
	中項目	生活しやすいまちづくり			
	小項目	下水道			
	施策	適正な維持管理			

事業について	
目的 (何のために)	漁業集落排水施設の機能を維持することにより、港内水質及び底質の改善・向上及び漁港周辺水域の水質保全・向上並びに漁村生活環境の改善に資すること。
対象 (誰・何を対象に)	日生町頭島及び大多府地区で生活をする市民及び不特定多数。
内容	漁業集落排水処理施設2か所及び管渠、中継ポンプ場設備の維持管理。

事業の結果								
実施項目	17年度	18年度						
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)					
処理水量	69,890 m <sup>3</sup> /年	75,315 m <sup>3</sup> /年						
処理水質BOD値	4 mg/l	5 mg/l						
汚泥処分量	170 m <sup>3</sup> /年	200 m <sup>3</sup> /年						
接続人口	698 人	674 人						
水洗化率	100 %	100 %						
事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	20,649	国庫補助金等	0	直接事業費	19,658	国庫補助金等	0
	人件費	2,255	委託費負担	9,043	人件費	3,085	委託費負担	8,354
	合計	22,904	市債	0	合計	22,743	市債	0
必要人員	0.25 人		0.35 人					
結果指標	結果指標名	放流量	放流量					
	結果指標量	69,890	75,315					
	単位	m <sup>3</sup> /年	m <sup>3</sup> /年					
	対前年比		107.76%			0.00%		
結果指標	活動にかかるコスト	22,903,724 円	22,742,943 円					
	単位当たりコスト	328 円	296 円					
	結果指標名	接続人口	接続人口					
	結果指標量	698	674			0.00%		
結果指標	単位	人	人					
	対前年比		96.56%			0.00%		
	活動にかかるコスト	22,903,724 円	22,742,943 円					
	単位当たりコスト	32,813 円	33,743 円					

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	文化的で健康的な生活の保持と水質の保全による漁業基盤の確保。		
成果指標名	放流水のBOD値	式又は説明	生物化学的酸素要求量：水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量。大きいほど汚れが基底的であることを示す。
	17年度	18年度	
成果指標量	4	5	
対前年比	-	125.00%	0.00%
到達目標値	10mg/l以下	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成18年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	B
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である (関係法令等: )	生活環境保全及び水質保全の重要性から当該事業の目的、対象並びに内容は妥当である。
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	今後施設の老朽化が進行しており、管理コストの増加が予想されるが、計画的に将来に向け効率化を図っていく。汚泥の大半は、脱水・天灯乾燥のうえ、資源化している。
	コストの効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	
有効性の評価	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	施設の老朽化が更に進行していくが、現在の水質は確保しなければならぬ。計画的な施設改修及び施設の効率的管理に努めコストの削減が必要とされる。
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	
市民参画度	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E>
			B

平成19年度の状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	説明	現在までは晴天が続き、前年度に比べ処理水量が減少している。老朽施設の改修整備の効果的方法について、検討中である。	
目標値	結果指標量	70,000 m <sup>3</sup> /年	結果指標量	660人
	成果指標量	10 mg/l以下		

総合評価		評価区分<A~E>	B
処理水量指標では単位当たりコストが減少したが、接続人口指標では人口の減少に伴い単位当たりコストが増加した。放流水の水質は、いずれの施設も基準を満たしている。			

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	--	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	老朽化している施設の効率的改修及び不明水対策の検討。	H20~	効率性を高めることにより、結果単位当たりのコストを下げるができる。
有効性	使用料をあげるにより、収入の増加を見込む。	H19~H20	収入の増加が見込めることにより、単位当たりのコストを下げるができる。~